

-----PR-----
「いやぁ～暑いね～」 「そう？たまには tonio のHPで頭も涼んだら？」
身体中が凍りつきそうな寒いギャグはこちら：Tonio's listeningroom
<http://www.gem.hi-ho.ne.jp/tokiok/>

紙幣に企業広告、通用期限導入。諸外国追随の動き
9日、宮沢蔵大臣は記者団の質問に答え、不況や減税による税収の落ち込みをカバーするための方策として、現行紙幣への企業広告導入と、紙幣の通用期限設定を行う用意があることを発表した。

これは、景気対策の切り札として行われた地域振興券が思いのほか盛り下がり、不評であったことから、抜本的な対策が必要ではないかという記者団の質問に答えたもの。企業広告は、現行紙幣の裏面半分ほどを使い、フルカラー印刷をするというもの。現在の透かし印刷よりも高度なフルカラー印刷と、機械に通すだけで真偽をチェックできる特殊インクを用いて印刷する。広告内容は国会での厳密な審査を通過したものだけが採用されるという。今のところ、広告第1号は、「ヒサヤ大黒堂」「ツヴァイ」「ラララむじんくんのアコム」といったところが候補にあがっている。

紙幣の通用期限は、庶民のタンス貯金が大きいのでは？という質問に即答した。いわば宮沢蔵相のとっさの思いつき案と言える。紙幣に定期的な約6ヶ月の通用期限を印刷するというもの。その期間のみ貨幣価値があり、それを過ぎるとタダの紙切れになるため、とにかく早く使ってしまうといういわゆる、トランプの「ババヌキのババ」現象が起き、貨幣流通が活性化されるというかなり過激な案と言える。

無論、通用期限内に銀行で新しい紙幣との交換は可能。政府では、「これで、タンス貯金は減るし、流通紙幣も極端に古いものはリサイクルされ、きれいになるし、おそらく通用期限を過ぎた紙幣も珍しい広告がついていれば、アラブの石油金がコレクション目的で高価買い受けするし、一石三鳥。」とかなり楽観的で良いことづくめのように考えているが、各種主婦連、女性団体からは、「紙幣の通用期限が気になって、安心してヘソクリができない」と早くも抗議が殺到している。

海外では、この日本政府の案に、「なぜ今までどこもしなかったんだろう？日本政府に似合わぬグッドアイデア」との賞賛の声があがっており、各国政府も追随する動きを見せている。

~~~~~  
この記事に対する希望、感想、応援、絶賛、驚愕、非難、中傷、怒号、罵倒、お捻りは tonio まで。  
なお、本文中の人名、社名、個別名称等、実在するものもありますが、記事内容とは一切関係ありません。たぶん。  
また、記事内容の真偽のほどは一切検証してありません。  
~~~~~

Copyright(C)、tonio、1999 掲載記事の無断転載したら泣いちゃうから。
